

「社会」への取り組み

「人財戦略」 人的資本経営

2022年度、三ツ星ベルトグループは、2030年度の「ありたい姿」において、事業活動における人材の重要性を、「人財戦略」という形で明確にしています。働き方改革、制度改革、風土改革を通じて、「変革を推進する人材」を育成してまいります。また、'21中期経営計画では、2023年度までに、人財投資・R&D・DXに50億円を投資する計画です。

● ガバナンスとリスク管理

三ツ星ベルトグループの人材育成には、これまで人事部、研修センター、および人事担当役員が委員長を務める働き方改革推進委員会の三者が携わってまいりましたが、2022年4月、新たに発足しました、社長が委員長を、経営会議メンバーが委員を務めるサステナビリティ推進委員会がこれに加わりました。トップマネジメントが直接活動に参加することで、活動の活性化と迅速化を図ります。また、取締役会への活動内容の報告、決議事項の上申はサステナビリティ推進委員会を通じて行われます。

人的資本に関するリスク管理は、取締役が委員長を務めるリスク管理委員会において実行されます。詳細は「内部統制体制 リスクマネジメント」(p42)を参照してください。

● 戦略および目標

国連グローバルコンパクトが定める、人権、労働、環境、腐敗防止に関する10原則の実現に向けた取り組みは、三ツ星ベルトグループのESG経営における重要課題になっていますが、一方で三ツ星ベルトグループ特有の課題解決にも着手する必要があります。これら二つの面から、中長期的な視点に立って、国内の三ツ星ベルトグループの事業活動にどのようなリスクと機会があるか洗い出しを行いました。リスクと機会の洗い出しの結果から、「ダイバーシティの推進」、「安全・健康」「働きがいのある職場づくり」の三方面から、「人財戦略」を実行してまいります。

ダイバーシティの推進

日本国内では人口減少に伴い労働力不足が課題となっており、女性の活躍推進、高齢者の活用、外国人労働者の採用がますます重要となってきます。特に女性活躍の目安となる女性管理職の割合は、現状、低い水準にあり、重点課題として取り上げ、KPIを設定し改善してまいります。一方で、DX技術を活用した生産性向上により適正な従業員数を維持します。

安全・健康

従業員の高齢化が進む中、事業活動における健康管理の重要性がますます高まっていますが、今後その傾向はより顕著になると思われます。これまで実施してきた定期健康診断、特殊健康診断、生活習慣病健診、メンタルヘルスチェック、人間ドックは、従業員構成や診断技術の革新に合わせて、そのシステムを維持、改善していくとともに、新たに「喫煙者割合の低減」と「肥満率の低減」を重点課題として取り上げ、KPIを設定し健康増進に向け活動してまいります。

働きがいのある職場づくり

「人財戦略」において様々な施策を実行してまいります。最も我々が目指しているのは従業員エンゲージメントを向上させ、働きがいのある職場をつくることです。会社が従業員を信頼し、ソフト（人事制度、安全衛生制度等）やハード（生産設備、職場環境等）を改善することで、従業員は会社を信頼し、最高のパフォーマンスを発揮できます。従業員エンゲージメントの把握、評価を通じて、様々な活動の有効性を検証、その結果を活動の改善に展開し、働きがいのある職場をつくってまいります。

関連項目			三ツ星ベルトグループのリスク (▼) と機会 (△)			
	種類	内容	内容		何に	大きさ
外部要因	法規制	女性活躍推進法、労働施策総合推進法、育児介護休業法、次世代育成支援対策推進法等	△	法規制の遵守状況を適切にステークホルダーに開示することで企業価値が向上する。	信頼性	大
			▼	法規制の不遵守、不十分な法規制遵守状況に関する情報開示は企業価値の低下を招く。		
	人口構成	少子化と長寿命化による急激な就労人口構成の高齢化	△	高齢者の知識、経験、ノウハウを活用し、不足する労働力を補いながら、社内年齢構成を平準化し安定した事業活動を行う。	人的資本 働き方 業績	大
			▼	学卒者、高卒者の採用が難しくなり、対応を怠れば社内年齢構成が歪になりオペレーションが難しくなる。		
			▼	高齢者の増加が、役職者への道を閉ざし若手社員の従業員エンゲージメント低下を招く。		
			▼	健康リスクが増大し不安定な事業活動となる。		
	外国人就労者	国内就労人口減少にともなう外国人就労者の増加	△	海外拠点での採用を視野に入れた外国人就労者の獲得を進め、労働力不足を補いつつ外国人就労者のスキルを活用することで安定した事業活動を実行する。	人的資本 信頼性 業績	中
			▼	外国人就労者の採用比率が少ない状態は人権侵害とみなされる可能性がある。		
	働き方	働き方の多様化	△	従業員一人ひとりの事情に適応した働き方が選択できる人事制度により、従業員エンゲージメントが向上、業績が好転。	働き方 人的資本 信頼性	大
			▼	働き方改革の停滞による従業員エンゲージメントの低下。		
		DX技術の活用	△	生産・物流では自動化、技術ではシミュレーション、営業・間接では時と場所を選ばない働き方を行い生産性を大幅に改善する。	業績 働き方	大
			▼	DX技術導入・活用が不十分であり、コストに占める労務費・人件費の割合が高くなる。		
	労働慣行	労働慣行が発生させる人権問題、不正取引	△	「三ツ星ベルトグループ行動基準」を許される範囲で優先させ、毅然とした事業活動を行うことで企業価値が向上する。	業績 信頼性	中
			▼	国内法で許されていても、国際法に抵触する不正取引（汚職）、人権侵害がある。		
			▼	人権問題に絡んだ原材料を使用し信頼性を失墜させる。		
		終身雇用、年功序列の衰退	△	成果主義に立脚した人事制度改革により従業員エンゲージメントが向上し業績が好転する。	働き方 人的資本 業績	大
			▼	人事制度自体の問題、制度運用の問題等により従業員エンゲージメントが低下する。		
			▼	終身雇用、年功序列の長所を廃して従業員エンゲージメントが低下する。		
	パンデミック	感染症の大流行	△	感染拡大を防止し安定した事業活動を行うことで企業価値が向上する。	業績 信頼性	中
			▼	クラスター発生による事業停止。		
内部要因	男女格差	女性比率の少なさ	△	適正な女性比率を目標とした採用活動、男女格差を是正する風土改革を実施しビジネス機会の増加とともに企業価値が向上する。	人的資本 信頼性	大
			▼	女性比率の少なさは人権侵害であり企業価値を低下させる。		
			▼	女性比率の少なさから女性固有の発想が得られずビジネス機会を失う。		
	グローバル化	海外売上比率、海外生産比率の増加	△	海外赴任機会が増加し現地で責任ある立場につくことで、管理者としてのスキル・知識が向上する。	人的資本 安全衛生	中
			△	現地スタッフから有能な人材を得られるようになる。		
			▼	赴任地によるが、公衆衛生、社会の安全が脆弱になり健康リスクが増大する。		

	重点課題	KPI
ダイバーシティの推進	女性管理職者数の増加	女性管理職者数 2030年度、2022年度比2倍以上（4%以上または7人以上）
安全・健康	喫煙者割合の低減	喫煙者割合 2030年度 15%以下
	肥満率の低減	BMI25以上の従業員の割合 2030年度 25%以下
働きがいのある職場づくり	従業員エンゲージメント測定、監視、評価	従業員エンゲージメント測定方法 2023年度 標準化、目標値設定

働きがいのある職場づくり

三ツ星ベルトグループの経営理念「人を想い 地球を想う」は、個の尊重、ダイバーシティの尊重を謳っており、私たちは、性別や人種はもとより、生活環境や考え方を異にする全ての従業員が安全、安心に生産性を高め、充足感をもって働くことのできる職場づくりを目指しています。

これまでも働きがいのある職場作りを進めてまいりましたが、“従業員エンゲージメント”を新たな指標に採用し、具体的な目標値を設定した上で2023年度から取り組んでまいります。

現在、三ツ星ベルトで行っている“働きがいのある職場づくり”の取り組み内容をご紹介します。

● 仕事と生活の調和

年次有給休暇制度

生活における様々な状況に対応して働き続けられるように、繰り越し日数も含め、最大で40日の年次有給休暇を取得することができます。取得しやすいように半日単位、時間単位の取得もできます。

2021年度年次有給休暇取得率

全体	管理職以上	管理職未満
48.6%	38.4%	54.9%

特別休暇制度

年次有給休暇以外にも、結婚、出産、忌引、法要、転勤など、人生の節目に対応した有給休暇を取ることができます。メモリアル休暇は誕生日の前後1週間に取得することができます。また、勤続15年と勤続25年を迎えた際には、リフレッシュ休暇を付与するとともに旅行券も支給します。

福祉休暇制度

福祉休暇は失効する年次有給休暇を積み立て、療養、家族の看護・介護等に活用する制度です。最大30日まで積み立てることができる有給休暇です。

福祉休暇取得者数

	2019年度	2020年度	2021年度
男性	10人	11人	14人
女性	1人	0人	1人

● 子育て支援

育児休業制度、短時間勤務制度

育児休業は法律に則り、最長で子供が2歳になるまで取得ができます。育児休業からの職場復帰後は、労働時間を最大で2時間短縮できる短時間勤務の選択が可能です。短時間勤務は子供が小学校の始期に達するまで選択可能で、子供が3歳になるまでは賃金の減額もありません。

また、所定外労働・深夜業の制限等の制度もあり育児に配慮しています。

育児休業取得率

	2019年度	2020年度	2021年度
男性	0%	5%	10%
女性	100%	100%	100%

当年度権利取得者中の取得率（継続者は含まない）

お星さま制度

母子・父子家庭の従業員、障がいのある子供をもつ従業員の子育てを支援する目的で、毎月、支援金を支給しています。

お星さま休暇制度

母子・父子家庭の従業員、障がいのある子供をもつ従業員、ご家庭に要介護者がいる従業員、共働きの従業員は通院、介護、学校行事参加等を目的としてお星さま休暇を取得することができます。

お星さま休暇は、賃金の減額がない独自の有給休暇です。

お星さま休暇取得者数

	2019年度	2020年度	2021年度
男性	29人	26人	43人
女性	14人	14人	17人

「子育てサポート企業」として、2008年度に厚生労働大臣の認定を受け、「くるみん」を取得しました。

2019年度は「ひようご仕事と生活の調和推進協業」に認定されました。

今後も従業員が安心して働ける環境作りに取り組んでまいります。



● 介護支援

介護休業制度

介護休業は法律に則り最大93日まで取得することができます。また、所定外労働・深夜業の制限等の制度もあり介護に配慮しています。

● ハラスメント防止

ハラスメント研修

ハラスメント研修は、職場からあらゆるハラスメントを排除することを目的に実施されます。性別、年齢、家庭事情等で差別し、相手の人格を損なうような言動をしていないか、自らをふり返る機会としています。

● DXの推進

テレワーク

働き方改革の一環として、「いつでも どこでも」を合言葉にテレワークの体制整備を進めてきましたが、COVID-19のパンデミックにより、強靱な情報セキュリティ管理システムを構築し、営業、間接要員の全員がモバイルツールを持つようになりました。

自動化ツールの活用：

RPA（Robotic Process Automation）、AI（Artificial Intelligence）

データの定型フォームへの転記、そのデータを使った定型報告書の作成、問い合わせに対する定型の対応等、これまで人がやっていた定型業務を機械にやってもらいます。これまでのRPA採用件数は122件です。

ワークフローシステム

「書類を回覧して確認・承認印を押す」という仕事のやり方を全てワークフローシステムに置き換える活動を展開しています。これまで65件のワークフローシステムを立ち上げ、業務完了までの時間を大幅に短縮することができ、テレワークの推進にも寄与しています。

● 働き方改革に一役かっています

部品管理システム『Tailor-note[®]』は、工場内で使用される設備部品の①在庫管理、②取付管理、③点検管理、④交換履歴をデジタル記録として残すことができるクラウドアプリケーションサービスです。

スマホやPCでこれらの管理を簡単に行う事ができます。

『Tailor-note[®]』を使用する事で設備保守業務の効率化が図れるだけでなく、紙媒体での管理を排除し、ペーパーレス化を推進する事ができます。



◎ 個の尊重

高齢者雇用

三ツ星ベルトは60歳定年制を敷いておりますが、本人が希望すれば定年後も就労することができます。2021年度は、定年退職者13名の内再雇用を希望した12名全員を再雇用しました。

障害者雇用

三ツ星ベルトは障害者雇用促進法の主旨を理解し、また、人材の多様性を確保するために積極的に障害者の雇用を進めております。

2021年度の障害者雇用率は2.42%であり法定雇用率を満たしております。

お星さま研修

長期の育児休暇から復職する従業員は、業務内容だけでなく、職場の人間関係にも悩みを抱えたりします。お星さま研修は、スムーズな職場復帰のため、メンタル面からもサポートしています。

女性従業員

2022年4月1日時点の三ツ星ベルトの女性従業員比率は8.4%、女性管理職比率は2.4%、定期採用者に占める女性の比率は20%となっています。

'21中期経営計画の見直しにおいて「人財戦略」を重要項目として取り上げ、「人財戦略の強化」をマテリアリティとしました。「女性管理職者数」をKPIとし、「ダイバーシティの推進」に取り組みます。確実に目標を達成し持続可能な企業づくりを進めます。

ユニフォーム改革

現場では、職場環境に応じてユニフォームの機能性が選べるようにしました。例えば、暑熱職場では接触冷感素材のユニフォームを着用しています。

オフィスでは、一人ひとりの個性を生かし、これまでの固定観念にとらわれず、新しく自由な発想や自律的な思考が生まれやすい職場環境を目指し、ユニフォーム以外の服装を選べるようにしました。



人権デューデリジェンスの実行に向けて

三ツ星ベルトグループの経営理念「人を想い 地球を想う」は、個の尊重、人権の尊重を謳っており、私たちはこれまで様々な事業活動においてこの経営理念の具現化を行ってまいりました。一方、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」は人権を尊重する企業の責任を定め、人権デューデリジェンスの実行を通じて継続的な人権課題の改善をサプライチェーンを含め求めています。

三ツ星ベルトグループは国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に賛同し、マテリアリティ「人権と人格の尊重」の取り組み課題の一つとして「人権デューデリジェンスの推進」を実行し人権を尊重する企業の責任を確実に果たしてまいります。

◎ ガバナンスとリスク管理

人権デューデリジェンスの実行責任者は社長であり、社長が委員長を、経営会議メンバーが委員を務めるサステナビリティ推進委員会が三ツ星ベルトグループで行われる人権に関する活動の管理組織となります。サステナビリティ推進委員会が、人権に関する事業活動の戦略、方針を決定、実行内容を監視・評価、必要に応じて指示を行い、取締役会への活動報告、決議事項の上申を行います。

人権に関するリスク管理は、取締役が委員長を務めるリスク管理委員会において実行されます。詳細は「内部統制体制 リスクマネジメント」(p42)を参照してください。

● 目標

- 2022年度： 責任者を含めて管理組織を構築し、人権方針を制定して人権デューデリジェンス活動に着手する
- 2023年度： 取引先に人権デューデリジェンスの実施を要請し、必要に応じて説明を行い、実施状況を監視する

一人ひとりの能力開発

三ツ星ベルトグループでは、あらゆる職場で実施される新入社員教育、初期作業教育が、従業員の能力開発の第一歩となります。その後、役職の変化に伴う階層別研修、職務内容に応じた専門研修、法令が定めるところの研修、自己啓発を支援する研修等、様々な能力開発プログラムを用意し、実行しています（下表参照）。また、QCサークル活動、提案活動、GLOBAL GEMBA KAIZEN ACTIVITY、SDGs活動、及びそれらの発表会も従業員の能力開発に大いに貢献しており、発表会において優秀な活動に付与される報償は活動の原動力となっています。

これら能力開発プログラムは、年度ごとに、スキルマトリックスをベースにして、部門、あるいは定められた組織で計画・実行され、有効性を評価したのち、次年度の活動に展開されます。

階層	階層教育	職能教育	ものづくり・DX	グローバル人材教育	自己啓発他
上級管理職 管理職	エグゼクティブスクール	各所属部門における専門職能教育	AOTS 海外実務者研修	徳星塾	通信教育
	部長研修				
	新任管理・専門職研修		三ツ星アカデミー	海外派遣研修	e ラーニング
	ヒューマンアセスメント研修				
中堅社員 若手社員	リーダーシップ研修		自主保全士研修	オンライン語学研修	お星さま研修
	入社3年目研修		生産現場の問題解決研修		
新入社員	新入社員研修		品質管理の基礎研修	海外赴任前研修	働く女性のスキルアップセミナー
	フォロー研修		QC 検定		
	ステップアップ研修		物流のIT化	海外現地採用社員研修	
	ビジネスマナー研修		AI（人工知能）活用		
	PC・office 研修				
	製品・材料基礎研修				
	ビジネス文書・簿記				
	SDGs 超入門				
	営業・技術・本社研修				
	安全教育				
	工場研修				

● 安全と衛生のために

全従業員に「安全心得」を配布し、安全の基本について意識付けを行っています。また、新入社員をはじめ、配置転換者、工程変更対象作業員、海外赴任者などを対象にして、法令、要領に基づいた安全教育を行っています。

新入社員を対象とした木工研修では、グループで木工作業などを行い、4Sの重要性、工具や保護具の正しい使い方、共同作業による協調性など、実技を通して安全作業の心得を学びます。

● 安全衛生教育一覧

就業時教育	実務能力向上教育	免許・資格取得教育
①雇い入れ時教育 ②初期作業教育 ③作業内容変更時教育 ④危険有害業務従事者特別教育 ⑤新任監督者教育 ⑥新任安全衛生管理者教育 ⑦新任衛生管理者教育 ⑧新任安全衛生推進員教育 ⑨新任総括安全衛生管理者教育 ⑩新任安全環境スタッフ教育 ⑪化学物質取扱作業教育	①危険有害業務従事者 ②作業主任者 ③危険物保安監督者（取扱者） ④管理監督者 ⑤安全衛生推進員 ⑥安全管理者 ⑦衛生管理者・工学衛生管理者 ⑧防火管理者 ⑨安全運転管理者 ⑩公害防止管理者 ⑪設計技術者 ⑫総括安全衛生管理者 ⑬安全環境スタッフ ⑭安全衛生教育インストラクター	①衛生管理者・工学衛生管理者 ②防火管理者 ③安全運転管理者 ④作業環境測定士 ⑤化学物質管理者 ⑥作業主任者（有機溶剤等） ⑦局排装置等定期自主検査者 ⑧技能資格者（玉掛等各種） ⑨危険物取扱者（甲・乙・丙） ⑩毒物劇物取扱責任者 ⑪冷凍保安責任者 ⑫公害防止管理者 ⑬排水管理者 ⑭産業廃棄物管理責任者 ⑮特別産業廃棄物管理責任者 ⑯廃棄物処理施設技術管理者 ⑰健康の保持増進スタッフ（各種） ⑱安全衛生教育インストラクター（各種） ⑲内部環境監査員

● 次世代リーダーのために

階層別研修

課長、部長、役員と、役職ごとに求められる知識は範囲を広げながら専門化するため、階層別研修を行い、実際の業務から得られない知識を補っています。

徳星塾

徳星塾では視野の広い人材を育成するために、あえて多くの雑学を学びます。例えば、テーブルマナー、禅、ワイン等々。役職に就く前、或いは役職に就いたばかりの若手を対象に実施しております。

● グローバル化に向けて

三ツ星アカデミー

設備保全の分野では設備の自動化が進む中、電気・電子系の知識、スキルが必要になっています。三ツ星アカデミーでは海外生産拠点の設備保全技術者を日本に集め、設備設計、組み立てから電気・電子に関する保全教育をOJTを交えながら集中的に教育しています。

海外派遣研修制度

日本を外から見ること、世界の中の日本を理解できる人材を育成するため、海外派遣研修を行っています。現地の大学に1年間留学し、言葉や文化だけでなく、多様性、人格、個性の尊重を学びます。2020年度からは、オンラインでの語学研修を新たにスタートしました。

● 強い現場を目指して

GLOBAL GEMBA KAIZEN ACTIVITY

GLOBAL GEMBA KAIZEN ACTIVITYでは、国内外の各拠点の若手スタッフが中心となって、各工場における生産性向上や歩留まりの改善、不良低減などの原価低減テーマを計画的に進めながら、人材の育成を図る取り組みを実施しています。

各テーマは、国内工場スタッフと海外工場スタッフが連携し、課題解決していきます。先輩スタッフを交えた定期的な進捗報告会や、年1回の海外工場での活動成果発表会等を通して、改善活動のレベルアップを図っています。

2021年度は新型コロナウイルスの影響で、海外拠点での成果発表会は中止となりましたが、リモート会議等を活用して活発なコミュニケーションを図りました。その結果、活動テーマ件数は2019年度比107%（2019年度15件→2021年度16件）で、原価低減効果を更に積み上げています。海外関係会社の従業員1名と国内の従業員1名がチームをつくり、webツールでコミュニケーションをとりながら、海外関係会社の課題解決にあたります。



自主保全士検定、QC検定

生産現場における設備保全と品質管理のスキルアップを目指して、自主保全士検定、QC検定受験に取り組んでおり、これまで多くの合格者を輩出しております。

Global KAIZEN & QCC Conference

生産現場の自主性を育み、課題解決能力を向上させることを目的として、QCサークル活動、提案活動に取り組んでいます。現在では海外関係会社まで活動の輪が広がっています。

日本を含め各海外生産拠点のGLOBAL GEMBA KAIZEN ACTIVITY、およびQCC活動の代表事例が、年に1回、いずれかの海外生産拠点に集められ、実行者、あるいは実行サークルによる事例発表が行われます。この集まりには三ツ星ベルト社長も参加しモチベーションの向上につながっています。

健康と安全

三ツ星ベルトグループは、従業員の安全と健康を確保し、これを管理するシステムを維持、改善することを、経営における最重要課題ととらえ、以下に示す「労働安全衛生基本方針」を掲げ、活動してまいりました。先に説明しました「人材戦略」においても、この点を重要課題としてとらえ、ぶれることなく活動してまいります。

● 労働安全衛生基本方針

三ツ星ベルトグループ全従業員の安全と健康確保およびそれを管理するシステムの継続的な改善は、経営の最重要課題であり、全従業員が協力して安全衛生活動に取り組みます。

行動指針

全従業員がコミュニケーションを図り、全員参加で安全衛生活動を実行します。

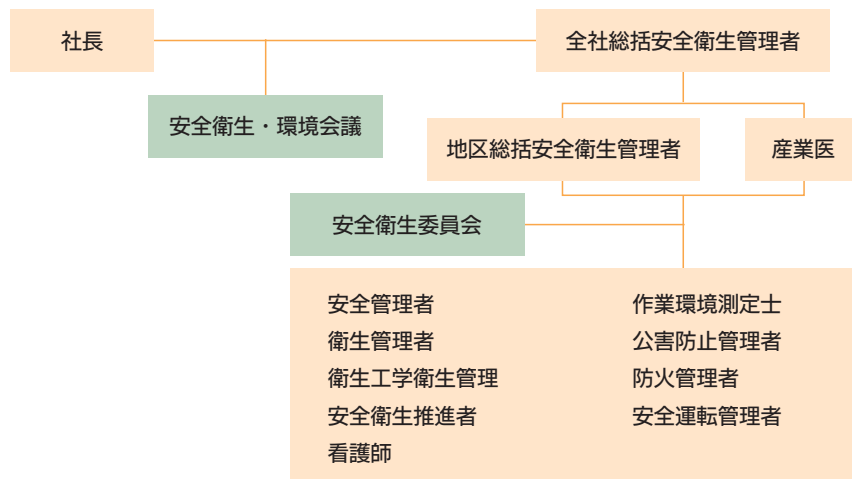
- ・安全衛生管理システムが常に有効に機能するように維持、改善を行います。
- ・安全衛生関係法令および安全衛生管理規程を遵守します。
- ・リスクアセスメントおよび安全衛生教育を通じて、労働災害の未然防止を図ります。
- ・健康診断、メンタルヘルス対策、感染症対策等を実施し、全従業員の健康管理を推進します。
- ・交通安全意識を高め、交通事故の撲滅を図ります。

● 管理体制

安全環境担当役員が議長を務め、全部門長がメンバーを務める「安全衛生・環境会議」が、年2回開催され、全社総括安全衛生管理者がまとめた実施状況報告について、社長と経営会議メンバーによるレビューを行い、その結果を戦略、方針、計画の見直しに展開いたします。

見直された戦略、方針、計画は、地区ごとに選任された地区総括安全衛生管理者を通じて、実質的な実行組織である安全衛生委員会に通知され、それぞれの現場に対応した方針、計画へと展開されます。計画の実行内容は、安全衛生委員会が、月度で監視、評価し、報告書としてまとめ、地区総括安全衛生管理者を通じて、全社総括安全衛生管理者に報告されます。

● 安全衛生管理組織



● リスクと機会

安全衛生に関する項目において、三ツ星ベルトグループの事業活動にどのようなリスクと機会をもたらすのか洗い出しを行い、その結果を具体的な施策に展開しました。

「内部監査によるコンプライアンスの徹底」、「リスクアセスメントによる災害の未然防止」、「健康診断システム、労働災害管理システムの維持・改善」を重点課題とし活動に取り組んでまいります。

関連項目	リスク（▼）と機会（△）	施策（取り組み、活動）
法令遵守	△ 早期対応による企業信頼度向上	内部監査、法規制教育・訓練、有資格者の育成、法改正など法令情報の展開
	▼ 法令違反、顧客要求違反による企業価値低下	
労働安全 交通安全	△ 安全確保による生産の安定、安全意識向上の相乗効果	リスクアセスメント、KY活動、安全衛生教育、安全パトロール、作業環境測定、安全対策の設備投資、ドライブレコーダーデータの活用
	▼ 労災、交通事故増加による労働力低下、企業価値低下	
健康管理 メンタルヘルス	△ 健康維持による労働活力の増強と安定	健康診断（定期健康診断・生活習慣病検診・特殊健康診断・人間ドック）、ストレスチェック、産業医/パトロール、産業医との面談
	▼ 罹患者増加による労働力低下	
防災・減災 事業維持・復旧	△ 早期対応による事業継続・早期復旧、企業信頼度向上	緊急避難訓練、アプリを利用した緊急連絡訓練、防災・減災の設備投資、結果事象型BCPの推進、新型コロナウイルスに対する柔軟かつ徹底した対策
	▼ 緊急時対策不足による事業活動の停止、企業価値低下	

● 実施状況

内部監査

2021年度、国内各拠点（四国工場、名古屋工場、東京本社）の内部監査を実施し、法令・社内ルールの遵守状況を確認しました。法令、社内ルールは遵守されています。

リスクアセスメント

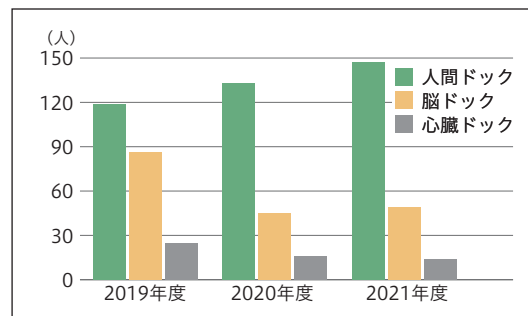
リスクアセスメントは、労働災害を未然に防ぎ、従業員の安全を確保するための基本となる、重要な手法の一つです。生産現場をはじめ、あらゆる労働環境において潜在的な危険性または有害性を見つけ出し、これを除去、低減することを目指しています。また、法令に基づき、取り扱う化学物質のリスクアセスメントを確実にを行っています。

健康と高齢化

三ツ星ベルトグループでは、法定の定期健康診断、特殊健康診断、ストレスチェック以外に、生活習慣病健診、その他がん検診が無料で受診できるよう健康保険組合と共同でプログラムを作っています。

2021年度	定期健康診断受診率	100%
	特殊健康診断受診率	100%

各種ドック受診状況

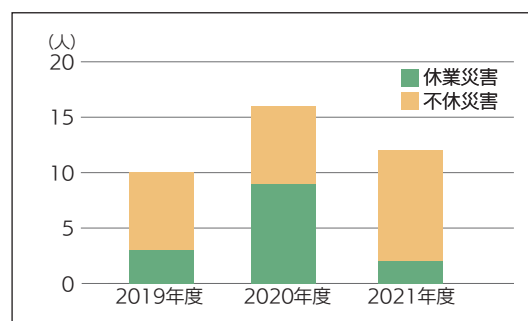


また、人間ドック、脳ドック、心臓ドックは受診資格に制限はありますが会社費用で受診することができます。

ゼロ災を目指して

交通事故を含む労働災害の撲滅に向けて、リスク管理の強化、内部監査による監視、ルールの見直し等を実施し、ゼロ災に取り組んでまいります。

労働災害発生状況



安全、安心な製品とサービス

三ツ星ベルトグループでは、ものづくりの会社として、製品とサービスに対するお客様の「信頼」は、企業価値の中でも特に重要視するところです。ISO9001に準拠した品質マネジメントシステム（QMS）を維持、改善しながら、その範囲をグループ全体に拡げてまいりました。自動車産業に関連する拠点では、要求事項がより厳しい自動車産業向けの規格IATF16949に準拠したQMSを構築しています。

これらQMSで定められた要領に従い実行される品質に関する事業活動は、「基本理念」ならびに「経営基本方針」のもとに定めた「品質基本方針」に基づいています。

品質基本方針

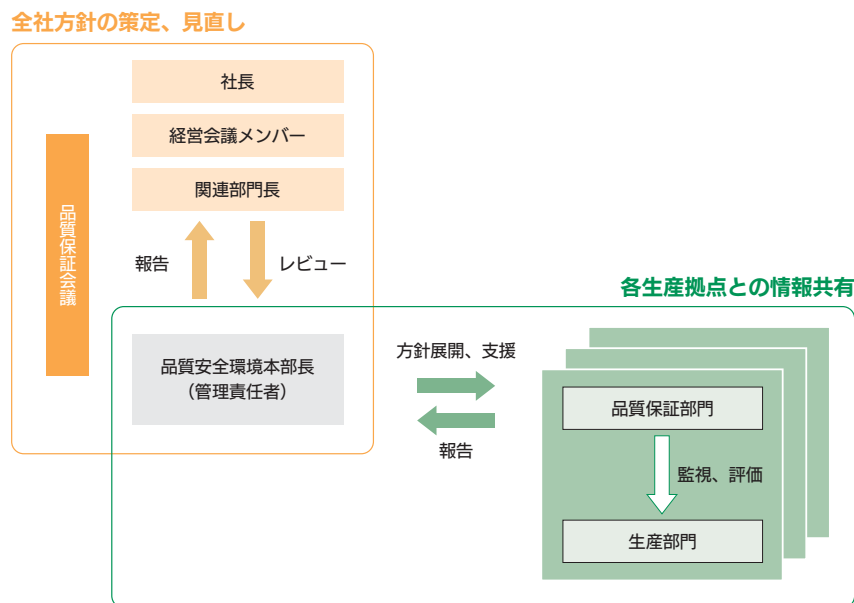
- ・高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する。
- 1. 「高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する」とは、顧客が性能・機能・信頼性等に満足し、社会に役立つ製品を造り、これを提供することをいう。
- 2. この品質基本方針を達成するために、下記の事項を実施する。
 - ①顧客の満足を得る製品を開発する。
 - ②全社的品質管理（TQM：Total Quality Management）を充実・レベルアップし、国内外業界トップレベルの品質を確保する。
 - ③決めた標準を守って仕事を行う。

● 管理体制

品質に関する事業活動、並びに品質問題に対する責任と権限は、社長にあり、品質安全環境本部長が活動の管理責任者を務めます。

社長は経営会議メンバー、部門長を招集し「品質保証会議」を開催、品質安全環境本部長が報告する活動状況についてレビューを行い、その結果を戦略、方針、計画の見直しに展開いたします。

見直された戦略、方針、計画は、品質安全環境本部長を通じて、各拠点の品質保証部門に通知され、それぞれの現場に対応した方針、計画へと展開されます。計画の実行内容は、各拠点の品質保証部門が、月度で監視、評価し、報告書としてまとめ、品質安全環境本部長に報告されます。



QMSの認証取得状況（品質管理システム）

規格種類	対 象	
IATF16949	三ツ星ベルト㈱（四国工場）	自動車用ベルト
	三ツ星ベルト技研㈱	自動車用ベルト
	MBL（USA） CORPORATION	自動車用ベルト
	STARS TECHNOLOGIES INDUSTRIAL LIMITED	自動車用ベルト
	MITSUBOSHI OVERSEAS HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED	自動車用ベルト
	PT. SEIWA INDONESIA	自動車用ベルト
	蘇州三之星機帶科技有限公司	自動車用ベルト
	MITSUBOSHI BELTING-INDIA PRIVATE LIMITED	自動車用ベルト
ISO9001	三ツ星ベルト㈱（神戸本社、東京本社、名古屋工場、四国工場） 三ツ星ベルト技研㈱ 三ツ星ベルト工機㈱	一般産業用ベルト、ウォームホイールブランク、エンジニアリングプラスチック、Vリブドプリー、ベルトテンショナー
	建設資材本部（神戸本社、東京本社、名古屋工場）	建築用防水シート、土木用遮水シート
	電子材料部	金属ペースト、回路基板材料および塗料
	三ツ星ベルト工機㈱	タイミングプリー
	三ツ星ベルトコンベヤ㈱	搬送用樹脂ベルト
	MITSUBOSHI OVERSEAS HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED	一般産業用ベルト
	PT. MITSUBOSHI BELTING INDONESIA	一般産業用ベルト、カップリングゴム弾性体
	PT. SEIWA INDONESIA	一般産業用ベルト
	STARS TECHNOLOGIES INDUSTRIAL LIMITED	一般産業用ベルト
	蘇州三之星機帶科技有限公司	一般産業用ベルト
JIS A6008	建設資材本部（名古屋工場）	合成高分子ルーフィングシート

● リスクと機会

品質保証に関する項目において、三ツ星ベルトグループの事業活動にどのようなリスクと機会をもたらすのか洗い出しを行い、その結果を具体的な施策に展開しました。

「QMSの維持改善」、「品質教育の充実」、「確実な工程管理」を重点課題とし活動に取り組んでまいります。

関連項目	リスク（▼）と機会（△）	施策
法令遵守 顧客対応	△ 早期対応による企業信頼度向上 ▼ 法令違反、顧客要求違反による企業価値低下	QMSの維持、改善 品質教育の充実
品質改善	△ 信頼性確保によるブランドイメージ向上 ▼ 品質レベルの低下による競争力低下	確実な工程管理 取引先様との協業
事業展開	△ 新規市場の開拓による受注機会の増加 ▼ 自動車のEV化による既存製品の市場縮小	新事業、新製品のQMS支援

● 実施状況

QMSの維持改善

2021年度、第三者監査を受審し、全対象拠点で、ISO9001、IATF16949、或いはJIS A6008の認証を維持しました。

コンプライアンスの徹底

生産拠点では、標準類遵守状況管理の一環として、日々、製造ライン責任者が職場パトロールを行いますが、マンネリ化を防ぐ目的で拠点責任者、他部門の責任者がパトロールに参加します。地道な活動ですが、小さな改善を積み上げることで、コンプライアンスの維持に貢献しています。

全自動倉庫

三ツ星ベルトの主力製品である伝動ベルトの仕様数は数千に及び、倉庫において発生する、誤品、員数間違い等、ヒューマンエラーを原因とするお客様からの改善要望は、なかなか根絶することができません。人の手を介さない全自動倉庫はヒューマンエラー対策の切り札として期待されるところです。既に2生産拠点、1営業拠点で稼働を始めており、今後、さらに展開を進めてまいります。

PL訴訟、リコールに備えて

PL訴訟、リコールは、ものづくりの会社の「信頼」を傷つけますが、財務的にも非常に大きなインパクトを発生させる場合があります。三ツ星ベルトグループ全体をカバーする保険に加入することでこれらのリスクに備えています。

サステナブルな購買活動

持続可能な社会を創造していくうえで、購買活動はその影響がサプライチェーン全体に及ぶため、三ツ星ベルトグループの事業活動の中で、特に重要視しなければならない活動となっています。

以下に示す「三ツ星ベルトグループ行動基準」からの抜粋項目に則り、サプライチェーン全体で、国連グローバルコンパクトが定める、人権、労働、環境、腐敗防止に関する10原則の実現に取り組めます。また、購買活動の主管部門は購買部となりますが、人事総務本部、品質安全環境本部も活動に加わり、サプライチェーン全体の改善に努めてまいります。

「三ツ星ベルトグループ行動基準」からの抜粋項目

- 商道德と自由競争を尊重した公正な取引を行い、私的独占、不当な取引制限、不正競争行為、優越的地位の濫用など）は行いません。
- 現地行政や公務員、また顧客や仕入先と適切な関係を構築し、腐敗を防止します。
- 仕入先に対して、当社行動基準に準じたCSRガイドラインを展開し、サステナビリティの取り組みの浸透・普及を徹底します。
- 人権・環境などの社会問題を引き起こす原因となりうる原材料の使用による地域社会への影響を考慮した調達活動を行うこととし、懸念のある場合には、使用回避に向けた施策を行います。

● グリーン調達

三ツ星ベルトグループは製品の環境負荷低減を目的として「グリーン調達実施要領」を制定し、グループ内における調達品の化学物質管理方法を明確にするとともに、取引先に対して環境管理システムの構築・維持・改善と環境情報の提供を要請しています。

グリーン調達方針

- ・環境保全の進んだ工場で作られた物を調達する。
- ・環境負荷の少ない原材料、部品、製品を調達する。
- ・紛争鉱物の不使用。

グリーン調達基準書の策定

三ツ星ベルトグループでは、原材料・部品・製品の調達にあたって、「品質、価格、納期」だけではなく、「環境負荷、環境保全に関する取組み」を調達基準に加えて、総合的に評価しております。

2005年3月にグリーン調達基準書を制定し、以後、最新の法規制動向を反映し改訂しております。

● パートナーシップ構築宣言

2021年度、三ツ星ベルトは、経済産業省が提唱するサプライチェーン全体での新たな付加価値の創造と適正な取引を目的とした「パートナーシップ構築宣言」を行いました。



地域社会と共に

三ツ星ベルトグループは、国内外にある全ての事業拠点がそれぞれの属する地域社会とともに発展していくことを目指し、以下に示す「三ツ星ベルトグループ行動基準」からの抜粋項目に則り、活動しています。国内の三ツ星ベルトグループでは、「住民と企業が共生するまちづくり」を目指し、グループ従業員で構成されるボランティア団体「三ツ星ベルトふれあい協議会」を結成し、地域の皆様とのふれあいを大切にしながら活動しています。

「三ツ星ベルトグループ行動基準」からの抜粋項目

- 地域社会とのパートナーシップを大切にします。
- 地域社会の課題解決につながる社会貢献活動を行います。

● 地域社会と一緒に

三ツ星ベルトグループはボランティア団体「三ツ星ベルトふれあい協議会」を通じて地域の皆様とのふれあいを大切にしながら、各地でイベントを開催してまいりました。2022年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からイベントの開催は困難な状況となりましたが、引き続き地域の皆さまとの交流を進めてまいります。

神戸本社のある、真野地区まちづくり推進会の役員会、および委員会と定期的に意見交換を実施しています。(2019年：22回、2020年：22回、2021年：22回) 行政、学校の関係者も参画しており、地域のニーズを確認し、開催するイベントに展開しています。

【神戸本社・事業所（神戸市長田区）】

たなばたまつり（7月）

地域に隣接する神戸市営地下鉄海岸線が2001年7月7日に開通したことを祝って始まったたなばたまつり。綾部事業所がある京都府綾部市から笹の寄贈を受け、周辺道路は願い事が書かれた笹飾りで華やかに彩られます。会場内には地域住民や三ツ星ベルト従業員が思い思いに企画した数多くの屋台が軒を連ねます。



ふれあいクリスマス会（12月）

地域住民を招待してクリスマス会を開催しています。子どもたちの歌や踊りが披露され、ボランティア参加の従業員が扮したサンタやトナカイが会を盛り上げ、子どもたちにプレゼントを手渡します。フィナーレは参加者全員でクリスマスソングを大合唱します。



【東京本社（東京都中央区）】

ミュージックサロン（年2回不定期）

震災復興にあたって多くの方からサポートをいただいたお返しをしたいと、東京で入場無料のコンサートを開催しています。観客の音楽ファンのみならず、出演する若手の音楽家の皆さんには、一流のコンサートホールで演奏する機会として喜ばれています。



【四国工場（香川県さぬき市）】

さぬき手打ちうどんと地引網体験会（5月）

四国工場に隣接する海岸での地引網と、さぬきうどんの手打ち体験会を開催しています。神戸本社や綾部事業所からもバスを連ねて大勢参加し、普段できない貴重な体験が喜ばれています。



生産拠点所在地への寄附

当社が生産拠点を置く、香川県さぬき市、京都府綾部市に寄附・支援を行っています。地域創生の一環として掲げるプロジェクト事業の内容に賛同し、企業版ふるさと納税を活用した上で、2022年にそれぞれの自治体へ1,000万円を寄附いたしました。この活動が評価され、綾部市からは市の発展に寄与した団体として2022年篤志者表彰を受け、さぬき市からも感謝状を授与されました。引き続き「地域との共生」を推進し、今後も事業活動を通じて地域との交流を続けてまいります。



● 防災への取り組み

地域との協力による防災（総合防災訓練）

三ツ星ベルトでは、事業場ごとに毎月一斉防災訓練を行うなど、従業員の災害に対する意識向上を図っています。

阪神・淡路大震災が発生した1月17日を「三ツ星ベルト防災の日」とし、消防署の協力を得てスケールアップした総合防災訓練を毎年行っています。訓練は震度6強の地震が発生したことを想定しています。近隣の方々も参加し、避難訓練、負傷者救助訓練、炊き出し訓練を定例訓練として行っています。また、バケツリレー、土嚢積みによる浸水防止訓練、応急担架による負傷者搬送訓練なども行っています。



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、さまざまなイベントが中止された中で、2022年1月に従来の訓練内容を変更し、長田消防署のご協力のもと、社内消火設備の操作説明を受けました。その際の映像を全従業員が視聴し、防災意識の向上につなげています。

● コロナ禍における2022年度の活動 一地域社会のために一

地域の小学校との交流

神戸本社では、コロナ禍で昨年度に引き続き近隣の神戸市立真野小学校新1年生の入学をお祝いする会が開催できませんでしたが、地域の一住民として子どもたちの安全を見守るため、新1年生に災害発生時に頭部を保護する防災頭巾を寄贈しました。引き続き、安全で安心な地域社会づくりの推進活動に協力いたします。



たなばたまつり

当社事業所のある綾部市から竹笹を提供いただき、たなばたまつりの笹飾りを2022年7月6日～8日まで3日間設置しました。

新型コロナウイルスの影響により、笹飾りのみの実施となったものの、今年度は神戸本社、名古屋工場、四国工場に加えて綾部事業所でも、同日程で笹飾りを行いました。例年とイベントの形式は異なりましたが、引き続き、地域交流を深めるため活動を進めてまいります。

【神戸本社】



【名古屋工場】



【四国工場】



【綾部事業所】



兵庫県立神戸商業高等学校へドラムセット贈呈

神戸本社での各種社内イベント出演を目的として有志社員で「THE STARS」というバンドを結成していましたが、新型コロナの影響でイベント自体が開催できなくなってしまい、THE STARSは解散しました。

バンド用機材として購入していたドラムセットも行き場を失っていたのですが、兵庫県立神戸商業高等学校の音楽部が楽器の提供を求めている、という情報が入り、ドラムセットの贈呈を申し出たところ快く引き受けていただきました。音楽部の部員の皆さまにも喜んでいただく事ができ、ドラムセットも再び活躍の場を得ることができました。



海岸清掃活動（四国工場）

四国工場では毎年さぬき手打ちうどん体験会と地引網を開催し、地元の方々をはじめ、神戸や綾部からも多くの方々にお越しいただき、イベントを通じた地域交流を進めてまいりました。しかしながら、2022年度も新型コロナの影響で残念ながら同イベントを中止するという結果となりました。そこで四国工場では、三ツ星ベルトCSR基本方針である『地域社会との連携と強調』とSDGsの目標の一つである『住み続けられる街づくりを』の一環として、昨年度に引き続き工場周辺の美化を図るため、グループ従業員を中心とした90名で工場北東（北松原海水浴場）の海岸清掃を2022年5月26日に実施しました。



【清掃前】



【清掃後】



清掃前の海岸は、雑草や枯草、ゴミが散乱していましたが、清掃活動によって海岸は元の姿を取り戻しました。



CSR活動（海外関係会社）

海外関係会社でも、基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、子供たちへの支援活動を行っています。子どもたちの未来を応援するこの活動は、国内各事業場にとどまることなく、海外拠点にも展開しています。また、地域社会との協業による環境保全活動も行っています。

タイでのCSR活動

STARS TECHNOLOGIES INDUSTRIAL LIMITED CSR活動

タイのSTARS TECHNOLOGIES INDUSTRIAL LIMITEDは、子供たちへの支援活動を中心にさまざまな活動を行っています。

カバン、アルコールハンドジェルを提供するための寄付を行いました。



COVID-19検査チームに必要な備品（スピーカー付きマイク、氷嚢、発泡スチロールケースなど）とワクチン接種用の医薬品（アルコールボール）を寄贈しました。



工業団地内の企業と協力してラヨーン地区で植林を実施しました。



COVID-19検査チームのための設備（パソコン、検査キットなど）と、診療に必要な医療用品（血圧計など）を寄贈しました。



インドネシアでのCSR活動

PT. MITSUBOSHI BELTING INDONESIA CSR活動

COVID-19を予防する目的で、マスク、フェイスシールド、消毒剤、防護服、食品などを提供し、会社周辺の人々を支援することに焦点を当てて活動を実施しました。

生徒と教師への感染防止対策用品の寄贈、学校への手洗い設備を寄贈しました。



パシルジャヤ区役所への感染防止対策用品と食料品を寄贈しました。



パシルジャヤ小学校とジャティウブン警察署で行われた予防接種プログラムを支援し、医療担当者のための感染防止対策用品と食料品を提供しました。



ジャティウブン地区の政府保健センターの医療担当者に防護服を提供しました。



PT. SEIWA INDONESIA CSR活動

COVID-19の流行により約2年間CSR活動を休止していたPT. SEIWA INDONESIAは、2021年度のCSR活動として、特にプカシ県における教育分野へのサポートとCOVID-19収束に向けた支援を行いました。また、MM2100工業地帯にある工業パートナー職業訓練校から、現場作業実習を行う学生を受け入れて、教育を実施しています。この活動は、彼らに仕事の世界と産業の世界を紹介し、特に製造業のニーズに合った従業員になるための準備をサポートするためのものです。特にプカシ県でCOVID-19ウイルスの影響を受けた産業労働者のために、集中隔離施設提供の寄付などを通じて支援を続けています。

MM2100工業地帯にある工業パートナー職業訓練校から、学生を受け入れて支援しています。



学生たちは、関連セクションのリーダーから指導を受けながら、現場でのトレーニングを受けています。



関連するセクションのオフィスでは、管理分野の研修も行っています。



CSR活動としてプカシ県政府に1000万ルピアの寄付を行い、特にプカシ県で働いている人々のために、集中隔離施設を提供しました。



集中隔離施設は、北チカラン県ジャバベカに位置しています。この施設は、特にプカシ県にある企業で働く人々を対象としています。



ヨーロッパでのCSR活動

MITSUBOSHI POLAND Sp.z o.o. CSR活動

ポーランドの国境警備隊は、8/28時点で、ポーランドに入ったウクライナからの避難民が580万人に達したと発表しました。2月の侵攻から半年が経過した8月24日はウクライナの31回目の独立記念日であり、ポーランド各地でウクライナに関する催しが行われました。

MITSUBOSHI POLANDの社員も支援金の寄付、物資寄付、物資提供会場での手伝い、配達支援、チャリティーマラソンなど各自プライベートな時間でボランティア活動に積極的に参加しています。

物資を満杯に詰めてウクライナ国境の避難所に向かう自家用車



物資受付の地元消防署にて



Mitsuboshi Belting Europe GmbH CSR活動

Mitsuboshi Belting Europe GmbHの従業員がウクライナから避難してきた知り合いを自宅に宿泊させたり、他の従業員もデュッセルドルフ市内中心部に開設された受け取り場所に支援物資を持参したり、デュッセルドルフ市を通じて寄付金を送ったりしています。支援物資を学校に持ち寄り、学校からメッセ会場に隣接する物流倉庫へ持ち込み、ポーランド行きのトラックへ積み替える活動を実施しています。

● 寄付を通じて

子どもたちの未来を応援する活動

【日本ユニセフ協会への寄付金贈呈】

基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、子どもたちへの支援活動を行っています。

阪神・淡路大震災で三ツ星ベルトの本社がある神戸市長田区は壊滅的な被害に見舞われました。歳月が流れるとともに災害に対する当時の記憶は薄れつつあります。しかし、世界中では依然として貧困などによって、年間520万人もの子どもたちが5歳未満でその尊い命を失っています。

三ツ星ベルトグループは基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、こうした子どもたちの役に立ちたいと、震災10年目の節目にあたる2005年度から「世界の子どもたちに愛の手を」と題して、グループ従業員一人ひとりから寄せられた寄付金を主体に、公益財団法人日本ユニセフ協会に対する寄付金贈呈を毎年継続して実施しています。2022年度も1,000万円を寄付しました。

We Support



※ユニセフ（UNICEF・・・国際連合児童基金）

【ウクライナ、モルドバへの支援】

ウクライナおよび周辺地域で被害に遭われている方々を支援するため、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）に10万ユーロ（約1,390万円）を寄付しました。この寄付金はUNHCRを通じて困難に直面している人々の人道支援に活用されます。また、ウクライナからの避難者を多く受け入れているモルドバ共和国へ、駐日モルドバ大使館を介して650万円の寄付を実施しました。

「ガバナンス」への取り組み

コーポレート・ガバナンス

三ツ星ベルトグループは、経営基本方針「高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する」を具現化するため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の最重要課題の一つと認識し、経営の質の向上と意思決定の透明化を図ることは絶対的に不可欠であると考え、その強化に継続的に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社は、株主の信頼を確保し、企業の社会的責任を果たすためには、コーポレート・ガバナンスの充実が経営上の最重要課題の一つであると考えています。

この考えの下、事業環境や市場の変化に迅速かつ柔軟に対応して業績向上に努めていくとともに、経営の効率性・透明性を維持・向上させるため、次の基本方針に基づき、経営に対する監督機能や内部統制体制の強化などに取り組み、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

「基本方針」

- (1) 株主の権利を尊重し、株主の平等性を確保することに努める。
- (2) ステークホルダー（株主・顧客・従業員・地域社会等）の権利や立場を尊重し、適切に協働することに努める。
- (3) 会社情報を適時・適切に開示し、透明性・公正性を確保することに努める。
- (4) 株主に対する受託者責任・説明責任を踏まえて、取締役会等の役割・責務を適切に果たすことに努める。
- (5) 株主との間で建設的な対話を行うことに努める。